|  |
| --- |
| 全日本教育工学研究協議会講演論文集「執筆の手引」  　執筆に際しては「全日本教育工学研究協議会講演論文集」投稿規定をご確認ください。  大会事務局では，送られてきた論文を完成原稿としてそのまま公開し，Webにもアップロードします。様式と異なる場合（文字数を増やす、行数を増やす、フォントサイズを変更する等）は受付できませんし、著者校正などの修正作業は一切行いませんのでご注意下さい。つきましては，以下の要領で論文集原稿の作成をお願いいたします。   1. 論文集原稿ページ数   １発表あたり２ページまたは４ページ  ２．論文集原稿書式  （１）用紙はＡ４版縦置き，本文は横書き，２段組   1. 余白は，上下左右25mm 2. 体裁を整えるため，発表題目はMSゴシック14ポイント太字，副題はMSゴシック12ポイント太字，氏名・所属・概要はMS明朝10ポイント，キーワードはMSゴシック10ポイント標準とする。英字はTimes New Romanを用いる。    1. 題目は，副題を含めて１〜２行目に記す。    2. 発表者氏名は，題目の後１行あけて書き始める。    3. 発表者の所属は，氏名の後に続けて（　）の括弧書きで記す。    4. 連名の場合には，氏名（所属）と氏名（所属）の間を「・」で区切る。    5. 題目および副題は中央揃え（センタリング），氏名および所属は右寄せとする。    6. 発表者の後１行あけて，概要は「概要：」の後から書き始める。    7. 概要は300文字以内にする。    8. 概要の後１行あけて，キーワード（最大６つ）を付する。    9. キーワードは「キーワード：」の後に中央揃え（センタリング）で記す。    10. 題目からキーワードまでは１段組とする。    11. キーワードの下は１行あけて２段組で本文を書き始める。    12. ２ページ目からは本文のみとする。    13. 図表や写真は、キャプション（タイトル）をつける。    14. 図表や写真の文字が読める解像度で作成する。    15. 参考文献は、論文の最後に著者苗字のアルファベット順で一括する。    16. 本文は「である調」で書き、句読点は「，（全角コンマ）」「。（句点）」を用いる。見出しはMSゴシック10ポイント標準とする。20〜24字×40〜47行×2段で作成すること。次ページの例は，Windows 環境でMicrosoft Wordを用いて作成したものである。本ページを削除し、２ページ目以降を用いて作成すると体裁が整う。 3. 締切 2022年07月31日（日）：発表申込〆切（厳守） 2022年08月21日（日）17時：論文提出〆切（厳守）   　論文の提出が期日まで行われない場合は，発表取り消しとします。 |

**情報活用能力を育成するための授業設計法の提案**

**－タブレット端末を用いた授業デザイン－**

教育太郎（〇〇市立○○小学校）・教育花子（○○大学）

概要：児童生徒の情報活用能力を育成するためには，○○○○○・・・・・（300文字以内）

キーワード：情報活用能力，授業設計，タブレット端末，○○○○○

１　はじめに

　○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・

２　研究の方法

（１）調査対象および調査時期

　○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・

（２）分析方法

　○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・

３　結果

　○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・

４　考察

　○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・



図１　サンプル１

５　結論

　○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・

これは表のサンプルです

表１　サンプル１

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 合計 | 平均 | 標準偏差 |
| A校 |  |  |  |
| B校 |  |  |  |
| C校 |  |  |  |
| D校 |  |  |  |
| E校 |  |  |  |

６　今後の課題

　○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・○○○・・・

参考文献

日本教育工学会編（2011）教育工学事典－教授方略－．実教出版，東京，pp.210-213

新村出記念財団（2008）広辞苑第６版．岩波書店，東京

佐藤次郎，高橋花子（2012）教育工学における質的研究について．日本教育工学会研究報告集，3：79-84

山田太郎（2008）教育工学の研究．日本教育工学会論文誌，32(2)：1-5

（２ページ目からは本文のみ，全体で２ページまたは４ページです。）